

トヨタ財団プロジェクト 第4回 日本側プロジェクト会議

日時：2018年8月31日（日）

会場：首都大学東京 5号館 142教室

議案：

1 経過報告

添田と長岡さんからトヨタ財団に提出した中間報告にもとづき報告があった。順調に遂行しているが、予算的には厳しい状況にあるので切り詰める必要性を確認した。

2 第2回 学びあい交流会（2018年9月・韓国）のスケジュールの確認

- ・韓国側の送付してくれた資料を確認した。
- ・訪問時のお土産は、学習者以外に一人1000円を徴収し、添田が購入する。
(全国文解・協議会と見学させていただく2教室 合計3ヶ所)。
- ・日本側の通訳用インカムを持参する。添田が手配。

3 ブックレット事業の進捗状況報告

- ・上杉さん（はじめに、日本の基礎教育をめぐる現状と課題）、関本さん（夜間中学）、森さん（被差別部落の識字運動）、新矢さん（地域日本語教室）の原稿の進捗状況を確認した。上杉さんから「自分の『日本の基礎教育をめぐる現状と課題』の原稿は内容的には補論として位置付けた方が全体のバランスがとれる」との発言があった。
- ・ブックレット事業担当の森さんから資料「日韓ブックレットの原稿を読んで」にもとづき、コメントがあった。現場向けの冊子であること、日本の現場の基礎知識がない韓国の読者を想定して書くこと、学習者の様子をもっと生き生きと描くべきことが合意された。
- ・意見交換後、次のことを確認した。
 - ①2018年9月の訪問時に韓国側担当者と森実さんがSkype会議。早急に時間を調整。
 - ②その結果を9月下旬には執筆者が共有するように知らせる。
 - ③2018年10月末までに修正版を提出してもらう。
 - ④次回の第5回日本側プロジェクト会議（2018年11月4日10:00～12:30）の数日前までに修正原稿を提出してもらい、各自自宅で読んできて会議で意見交換する。
 - ⑤2019年3月の第3回プロジェクト会議までには最終原稿を提出。翻訳作業へ。
 - ⑥2019年11月までには翻訳版を刊行。

4 教材翻訳事業の進捗報告

- ・内山論文の翻訳掲載願（日本社会教育学会長宛）を確認した。内山論文の翻訳は完了。
- ・訪韓時に、『にはんご春夏秋冬』の翻訳版イメージとして新矢さんが資料を持参する。
- ・9月17日の訪韓時に新矢さんと韓国の担当者と詳細を確認する。
- ・10月末には、解題担当者は新矢さんに原稿を提出する。

5 日韓基礎教育宣言づくりワークショップ（2019年3月・日本）

- ・資料「日韓基礎教育宣言づくりワークショップ予算案」（前回会議資料 2018年5月19日）にもとづき、予算を確認した。かなり厳しい状況であることを共有した。
- ・資料「日韓基礎教育共同宣言づくりワークショップ企画案」にもとづき、協議した。日程の大枠は、了承された（+3月30日キャナルシティでの観光・昼食時に事務局会議）。スケジュール案を参照。具体的な内容を詰めていきたい。
- ・韓国側30名（うち学習者12名）、日本側も30人とする。
- ・予算を勘案した結果、1地区3名（学習者2名+引率1名）を変更する。原則1地区2名（学習者1名+引率1名）とし、北海道2名、大阪2名、神戸2名、沖縄2名、福岡8名、その他14名。

***会議後の変更点**

北海道の工藤さんに連絡したところ、すでに学習者2名の人選を終えており、変更は難しいとのこと。北海道は学習者2名、スタッフ1名とする。

- ・訪韓時に、次の2案を提案し、確定する。
 - A案：あらかじめ背景や理論的な整理を行い、ワークショップ当日は、「声」を集める作業とする。
 - B案：「声」を集めた後に、背景や理論的な整理を含めつつ、まとめていく。

6 バンコクでのユネスコ主催のイベント参加について（新規提案）

- ・大安さん（ユネスコ・アジア文化センター）から協力依頼があったことを確認した。
- ・翌日のJASBEL理事会で了承されたので、訪韓時に韓国に次のように提案する。

【日時】2019年7月頃にバンコク

【経緯】ユネスコ・アジア文化センターの大安喜一さんから協力依頼
基礎教育保障学会としては、協力を了承。

【提案】東アジア先進国における基礎教育保障に関するラウンドテーブルのようなものを開催してはどうか（学習者含む）。

【予算】要協議

⑦最終シンポジウム（2019年秋・韓国）について

- ・韓国側に宣言文の披露に加えて、「変化の記録動画」を披露し、参加者で確認してはどうかと提案する。

以上